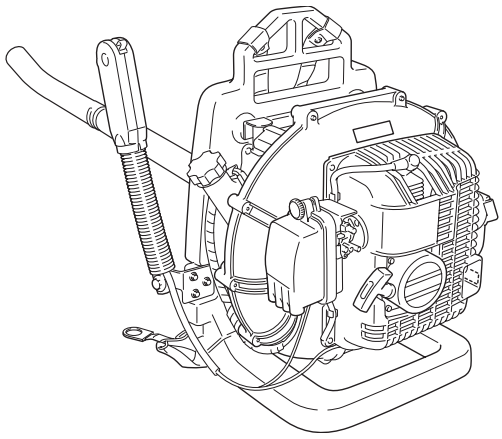
KIORITZ

共立パワーブロワー
PB460

取 扱 説 明 書



見出し	ページ
重要なお知らせ	2
⚠ 安全にご使用いただくために	3～8
1．梱包部品一覧	9
2．各部の名称と機能	9
3．作業前の準備	10～12
4．エンジンの運転	13～14
5．製品の操作	15
6．点検・整備	16～20
7．仕様	21
8．その他	21
索　引	22

LEMA

（社）日本陸用内燃機関協会
小形汎用エンジン
排出ガス自主規制適合証

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

重要なお知らせ

製品をご使用になる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

●製品の使用目的
- この製品は２サイクルエンジンパワーブロワーです。色々なゴミや落ち葉を吹き払うために使用してください。目的以外に使用してはいけません。

●製品の使用者について
- この製品は取扱説明書をよく読んで充分に熟知した人が使用してください。
- 取扱説明書をよく読んでいない人、風邪や疲労など体調のよくない人、１６歳未満の人は製品を使用しないでください。

●取扱説明書について
- 本書には、製品の組立や操作、整備に必要な事項が書かれています。よく読んで理解してください。
- 本書はいつでも読めるように必ず保管してください。
- 本書が損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から新しく取扱説明書を購入してください。
- 単位はＳＩ単位（国際単位系）を使用しています。（　）内は参考値ですので若干の換算誤差がある場合もあります。

●製品の貸与、譲渡
- 本書で解説している製品を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書とともに製品を貸与してください。製品を譲渡される場合は、本書を製品に添付してお渡しください。

●保証書
- この製品には保証書が同梱されています。
- 使用目的以外の作業による製品の故障、あるいは改造による故障の場合は、保証の対象外になりますのでご注意ください。
- 詳しくは保証書をお読みください。

●お問い合わせ先
- この製品についての内容や消耗品のご購入、修理などのご用命はお買い求めいただいた販売店にお問い合わせください。

●おことわり
- 本書の内容は、製品の改良のため予告なしに変更することがあります。また使用している図は説明をわかりやすくするため、現品と異なる場合があります。
- 本製品は一部部品の組立作業が必要となります。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら販売店にご相談ください。

目　　次

⚠安全にご使用いただくために 3
■警告表示 3
■その他の表示 3
■シンボルマーク 3
■警告表示ラベルの貼付け位置 4
■一般的なご注意 5
■燃料およびエンジン取扱い上のご注意 6
■製品取扱い上のご注意 8
１．梱包部品一覧 9
２．各部の名称と機能 9
３．作業前の準備 10
3-1　組立 10
3-2　燃料の準備 11
４．エンジンの運転 13
4-1　エンジンの始動 13
4-2　エンジンの停止 14
５．製品の操作 15
６．点検・整備 16
6-1　点検・整備の目安 16
6-2　点検・整備要領 16
6-3　故障診断表 19
6-4　長期保管（３０日以上） 20
７．仕様 21
８．その他 21
8-1　補用品と消耗品 21
8-2　アクセサリ類（別売品） 21
索　引 22

⚠ 安全にご使用いただくために

製品をご使用になる前に、この章を必ずお読みください。

■警告表示

本書や製品では作業者などが人身事故を負う危険性のある事柄を、下記の警告表示で示しています。安全作業のためによく読んで、必ず守ってください。

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

■その他の表示

本書では警告表示以外に下記の表示を使って説明しています。

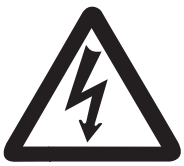
丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表します。

重　要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている製品の使用、点検、保守、保管に関する重要な注意事項です。

■シンボルマーク

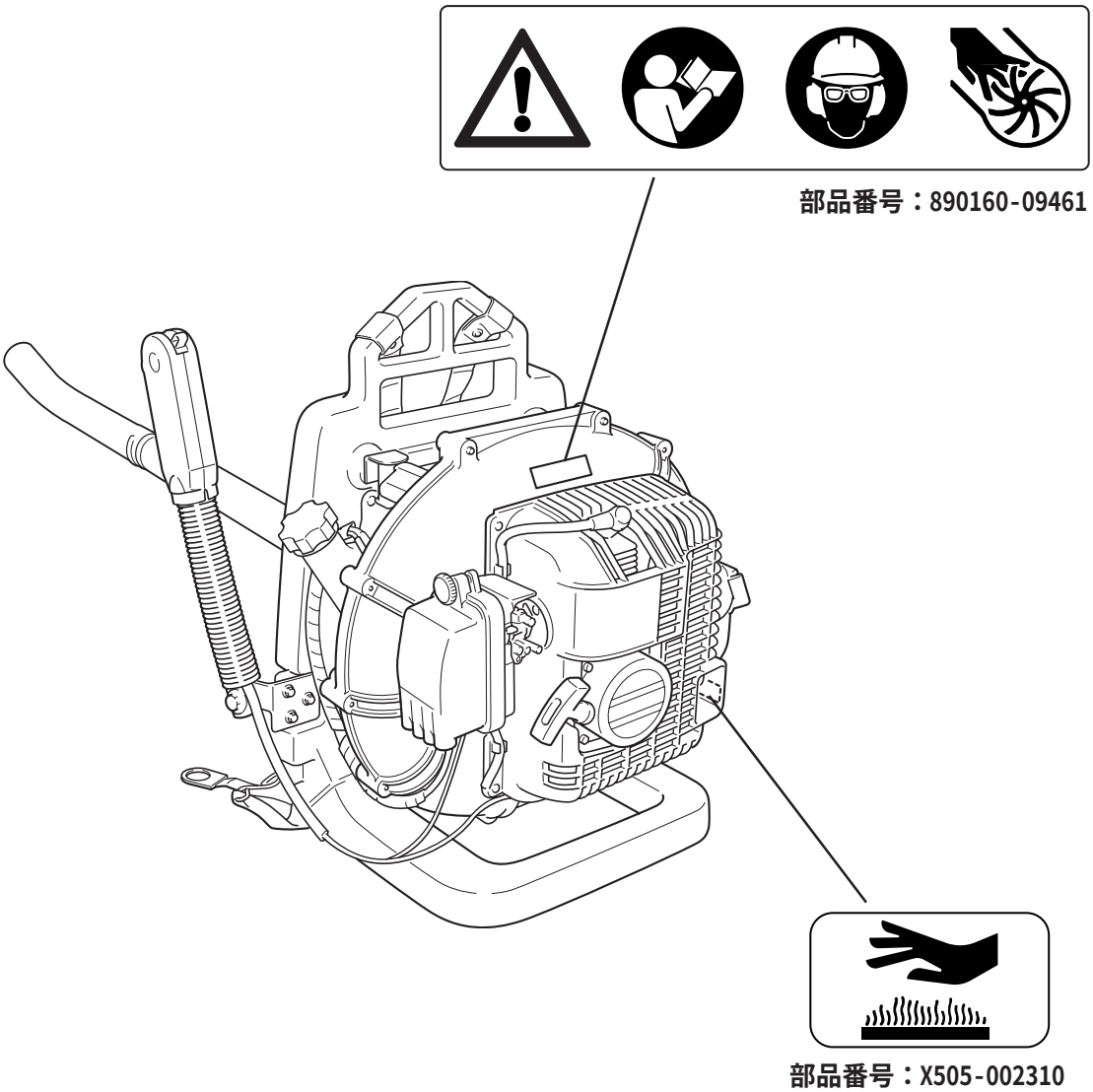
本書と製品ではシンボルマークを使って説明しています。各シンボルマークの意味を充分に理解してください。

シンボルマーク	シンボルマークの意味	シンボルマーク	シンボルマークの意味
	ご使用前に取扱説明書を読み、正しく作業すること。		電気ショックに注意すること。
	作業中は、保護具を必ず着用すること。		高温部に注意すること。
	製品を通気の悪い場所では使用しないこと。		回転部の巻き込まれに、注意すること。
	火災に注意すること。		

⚠ 安全にご使用いただくために

■警告表示ラベルの貼付け位置

・本書で解説されている製品には、下図の「警告表示」のラベルが貼ってあります。ご使用前にラベルの意味を理解してください。
・ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、下図に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。



⚠ 安全にご使用いただくために

・ここに記載されている「注意事項」は、安全に関する重要な項目です。必ず守ってください。
・本文の中にも重要な「注意事項」を記載していますので、必ずお読みください。
☆印に続く文章は、「注意事項」を守らないと起こり得る結果を示しています。

■一般的なご注意

⚠ 警　告

●取扱説明書

・ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
☆事故や重傷を負う原因となります。



●製品の使用目的以外の使用禁止

・製品を取扱説明書に記載されている使用目的以外の用途に使用してはいけません。
☆事故や重傷を負う原因となります。

●製品の使用者

次の項目に該当する人は製品を使用しないでください。
・疲労している人
・酒を飲んでいる人
・薬物を服用している人
・妊娠している人
・体調不良の人
・取扱説明書を読んでいない人
・１６歳未満の人
☆事故の原因となります。



●製品の改造禁止

・製品を改造してはいけません。
☆事故や重傷を負う原因となります。
製品の改造が原因で故障した場合は、メーカー保証の対象外となります。

●点検・整備をしていない製品の使用禁止

・点検・整備をしていない製品を使用してはいけません。定期的な点検・整備を必ず行なってください。
☆事故や重傷を負う原因となります。

●製品の貸与、譲渡

・製品を貸すときは借りる人に、取扱説明書と共に製品を貸してください。
・製品を譲る場合は取扱説明書を添付して製品を渡してください。
☆事故や重傷を負う原因となります。

●製品の使用環境・作業環境

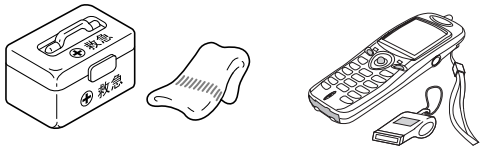
・急傾斜地や雨上がりなどの足元が不安定な場所では滑りやすく危険なので、製品を使用しないでください。
・夜間や視界が悪く暗い場所などでは製品を操作しないでください。
☆転倒や滑落、誤った操作などにより、重傷を負う原因となります。

●健康管理

・健康管理のために、休憩を取りながら余裕を持って作業してください。
・長時間の連続作業は避け、２時間を限度としてください。
☆健康障害を受ける恐れがあります。

●ケガへの備え

万一の事故やケガへの準備をしてください。
・救急箱（応急手当用）
・タオルやてぬぐい（止血用）
・呼子や携帯電話（外部との連絡用）
☆緊急の応急手当や外部への連絡ができず、症状が悪化する恐れがあります。



⚠ 安全にご使用いただくために

■燃料およびエンジン取扱い上のご注意

燃料は「混合燃料」です。

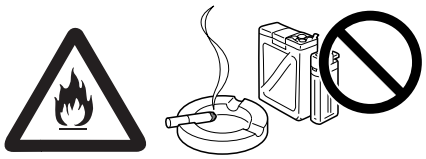
⚠ 危　険

●燃料給油時は火気厳禁

燃料は非常に引火しやすいので、取扱いを誤ると火災の危険があります。次の項目を必ず守ってください。

- **燃料給油中にタバコを吸ったり、火花を近づけない**
- **エンジンが熱いときやエンジン運転中は、燃料補給をしない**

☆燃料に引火して火災を起こしたり、火傷を負うことになります。



⚠ 警　告

●静電気は火災の原因

ガソリンは容器内部で揺られると、静電気を帯びやすい性質を持っています。給油時の放電による火災を防ぐため、次の項目を守ってください。

- **運搬に用いた鋼板製のガソリン携行缶は、地面に置いて静電気を逃がす。**
- **ポリミックス（別売品）で燃料を混合した後は、数分間静置して静電気のレベルを下げる。**
- **作業者は、給油前に手のひらを地面や金属などに押し当てて、自身の静電気を逃がす。**
- **製品は、エンジンを停止したまま充分に冷えた状態になるまで地面に置き、静電気のレベルを下げる。**
- **燃料給油時に、金属製の漏斗（ろうと）を使用しない。**
- **湿度の低いときは、燃料容器や製品の燃料タンクを乾いた布で拭かない。**

☆静電気が燃料に放電して、火災の原因となります。

●こぼれた燃料は火災の原因

燃料給油時は、次の項目を守ってください。

- **燃料は燃料タンクの口元まで入れずに、規定レベル（規定レベル表示のないものは燃料タンクの肩口）以下に補給**
- **燃料を入れすぎてあふれたり、こぼれた場合はこぼれた燃料を拭き取る**
- **燃料を給油した後は燃料タンクキャップを確実に締付ける**

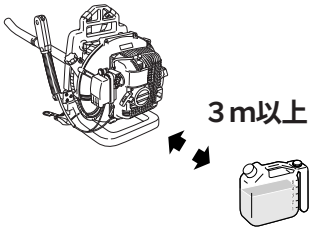
☆こぼれた燃料に引火して火災や火傷の原因となります。



●燃料補給地でのエンジン始動禁止

- **燃料を補給した場所でエンジンを始動してはいけません。エンジンを始動する前に、燃料を補給した場所から３m以上移動してください。**

☆燃料補給時の漏れた燃料に引火し火災の原因となります。



●燃料漏れは火災の原因

- **燃料補給後に、必ず燃料パイプ、燃料系グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れやにじみがないかを確認してください。**
- **燃料の漏れ、にじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。**

☆燃料漏れがあった場合、火災の原因となります。



●ポリ容器での燃料運搬・保管は禁止

燃料はできるだけ使い切ってください。燃料を運搬あるいは保管する場合は、次の項目を守ってください。

- **鋼板製のガソリン携行缶で運搬・保管**
- **保管期間は１ヶ月程度**
- **ポリ容器やペットボトルに燃料を入れて運搬・保管することは禁止**

☆ポリ容器での運搬や保管は法律で禁止されており、火災の原因となります。



⚠ 安全にご使用いただくために

■燃料およびエンジン取扱い上のご注意

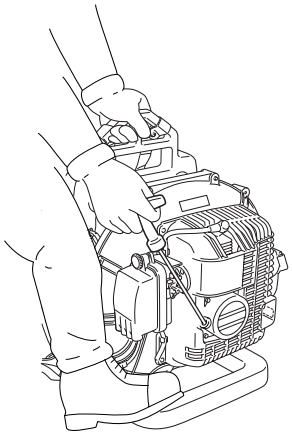
⚠ 警　告

●エンジン始動時

エンジンを始動するときは、特に次の項目を守ってください。

- **ボルトやナット類にゆるみがないことを確認**
- **燃料が漏れていないか確認**
- **製品を背負ったままでエンジンの始動禁止**
- **製品を平坦で通気のよい場所に置く**
- **周囲は広くとり、人や動物を近づけない**
- **障害物は取除く**
- **スロットルレバーは始動・運転位置**
- **製品を地面にしっかりと押え始動操作**

☆始動前の注意を怠ると、事故や重傷を負う原因となります。



●始動後は異常振動・異常音の確認

- **エンジンを始動したら、異常振動･異常音が発生していないか確認してください。異常振動･異常音がある場合は製品を使用してはいけません。販売店に修理を依頼してください。**

☆部品の脱落、飛散などの事故により、重傷を負う原因となります。

●発火・発煙には、まず安全確保

- **エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず身体から製品を離し、身体の安全を確保してください。周囲に類焼しないようにシャベルで砂などをかけるか、消火器で消火してください。**

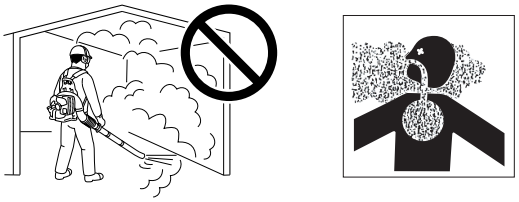
☆あわてて対処しようとすると、火災やその他の傷害の拡大につながります。



●排気ガスは有毒

- **エンジンの排気ガスには、有毒なガスが含まれています。**
- **屋内やビニールハウスなど通気の悪い場所で製品を運転しないでください。**

☆排気ガスによる中毒事故の原因となります。



●点検・整備時はエンジン停止

作業後に製品の点検・整備を行なう場合は次の項目を守ってください。

- **エンジンを停止し、エンジンが冷えてから点検・整備**

☆火傷を負う原因となります。



- **スパークプラグキャップを外して点検・整備**

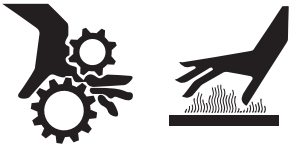
☆突然の始動により事故を起こすことがあります。

●移動時はエンジン停止

次のようなときは、エンジンを停止し製品を背負った状態で移動してください。

- **作業場へ移動するとき**
- **作業中に他の場所へ移動するとき**
- **作業場から帰るとき**

☆傷害や火傷を負う原因となります。



●燃料を入れたまま車での移動は禁止

- **車で運搬する場合は燃料タンクをカラにして、製品を立てた状態で動かないようにしっかり固定してください。**

☆燃料を入れたまま車で移動すると、火災の原因となります。

⚠ 安全にご使用いただくために

■製品取扱い上のご注意

⚠ 警　告

●保護具の着用

- **製品を使用するときは、適切な衣類と正しい保護具を身に付けてください。特に作業時は、保護めがね（ゴーグル）と防じんマスク、耳覆い（イヤーマフ）を必ず着用してください。**

☆吹き払ったゴミや粉じんなどを目に入れたり吸込んだりして、事故や傷害の原因となります。





●製品使用時

製品を使用するときは、特に次の項目を守ってください。

- **作業場所に、作業に関係のない人や動物を近づかせない**
- **噴管を人や動物に向けない**
- **足場の悪い場所では製品を使わない**
- **アームは、しっかりと握る**
- **夜遅くまたは朝早く近隣の人に騒音で迷惑をかけるときは、製品の使用を避ける**

☆事故や傷害の原因となります。



●異常時は直ちにエンジン停止

- **作業中に製品が突然異常な音を発したり、異常な振動をした場合は、直ちにエンジンを停止してください。**
  異常振動・異常音がある場合は製品を使用してはいけません。販売店に修理を依頼してください。

☆故障した製品をそのまま使用すると、事故や傷害の原因となります。

●巻き込まれに注意

- **髪の毛がファンに巻き込まれないように注意してください。**
- **運転中はエンジンと背当ての間に絶対に手を入れないでください。**

☆ファンの風圧により、巻き込まれて重傷を負う原因となります。



●運転中は高温部、高電圧部に接触禁止

製品の運転中および停止後しばらくの間は、次の高温部や高電圧部に触らないでください。

- **マフラやシリンダなどの高温部**

☆高温部に触れると火傷します。



- **スパークプラグ、プラグコードなどの高電圧部**

☆運転中に高電圧部に触れると感電します。



●スパークプラグの点検

スパークプラグの点検では次の項目を守ってください。

- **電極やターミナルの摩耗、ガイシに亀裂がある場合は新品と交換**
- **スパークプラグの火花を確認する発火テストは熟練者以外の人は禁止、販売店に依頼**
- **シリンダのプラグ孔付近での発火テストは禁止**
- **燃料がこぼれたり、燃えやすいガスがある場所での発火テストは禁止**
- **スパークプラグの金属部に触れることは禁止**

☆引火による火災および感電事故の原因となります。





●製品の保管場所

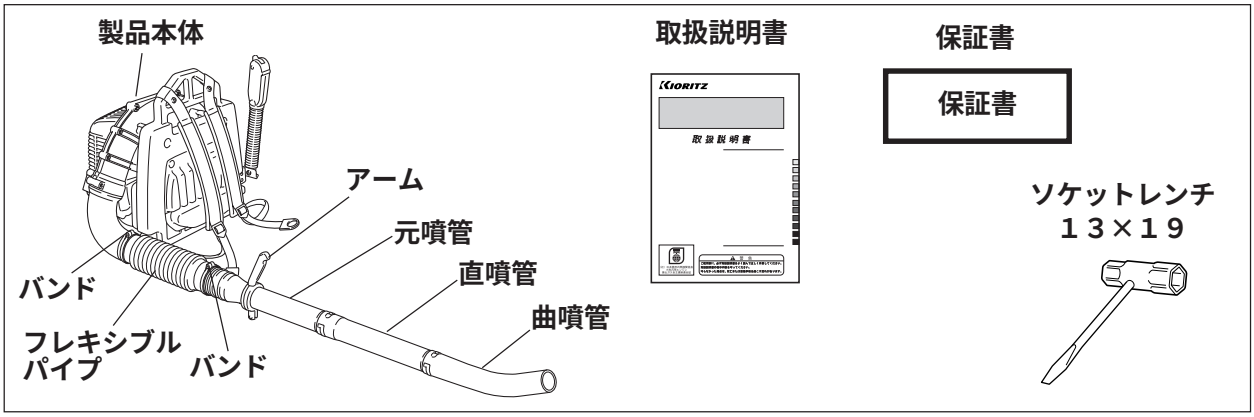
- **燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のある場所に製品を保管しないでください。**

☆火災の原因となります。

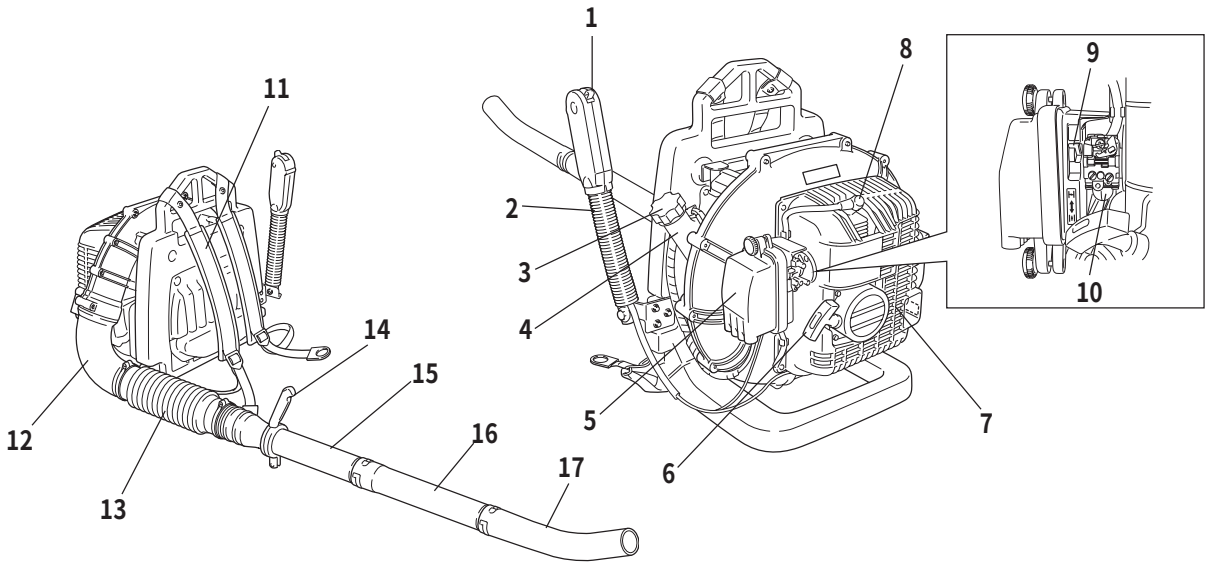


１．梱包部品一覧

・梱包箱の中には、下記部品が分かれて梱包されています。
・梱包箱を解きましたら、中の部品を確認してください。
・欠品や破損などがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。



２．各部の名称と機能



1．スロットルレバー	ー エンジン回転数を調節するとともに、エンジンの停止に使用します。
2．スロットル コントロールアーム	ー スロットルレバーを操作しやすい角度に調節します。
3．燃料タンクキャップ	ー 燃料タンクを密閉するふたです。
4．燃料タンク	ー 燃料を入れる容器です。
5．エアクリーナ	ー エンジンに供給される空気をきれいにします。
6．スタータグリップ	ー エンジンを始動するときに使用します。
7．エンジンカバー	ー エンジンを覆い、作業者が不用意に熱い部分に触れるのを防ぎます。
8．スパークプラグ	ー エンジンシリンダ内の混合気に点火する部品です。
9．チョークレバー	ー 始動時に燃料と空気の混合比を濃くするレバーです。
10．プライマリポンプ	ー 始動前にこのポンプを押して､燃料タンクからキャブレタに燃料を送り込みます。
11．背負バンド	ー 製品を背負う際に使用します。
12．エルボ	ー 風の方向を変えます。
13．フレキシブルパイプ	ー 噴管操作に対応する柔軟なパイプです。
14．アーム	ー 噴管を操作するときに握ります。
15．元噴管	ー アームを取付けます。
16．直噴管	ー 噴管を接続し長くします。
17．曲噴管	ー 色々なゴミや落ち葉を吹き払う噴管です。

３．作業前の準備

３-１　組立

⚠ 警　告

- **取扱説明書をよく読んで、正しく組立ててください。**
- **エンジン運転中に、組立、修理はしないでください。**

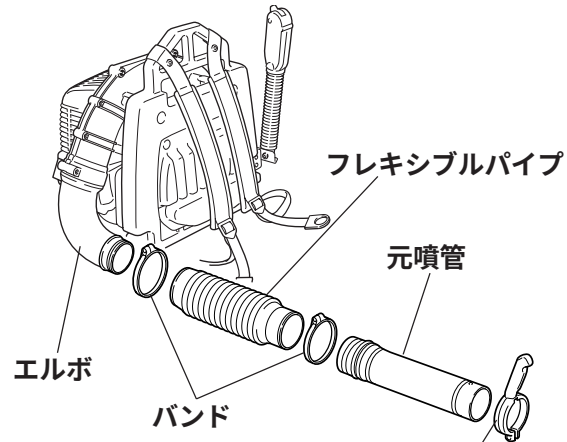
☆重傷事故を起こす原因となります。



重　要

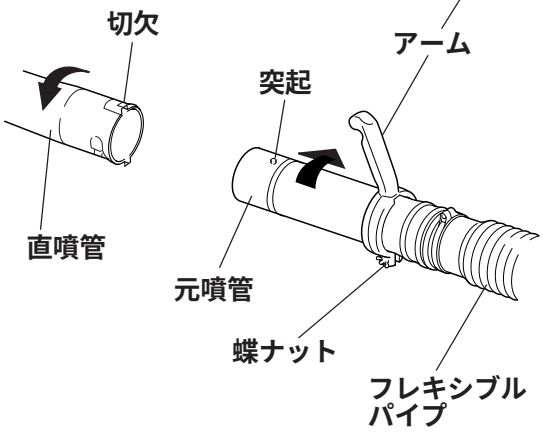
フレキシブルパイプ、噴管類を確実に組付けずに、製品を運転しないでください。

■ 噴管の組付



1．エルボにフレキシブルパイプを組付け、バンドでしっかり固定します。

2．フレキシブルパイプに元噴管を差込み、バンドでしっかり組付けます。



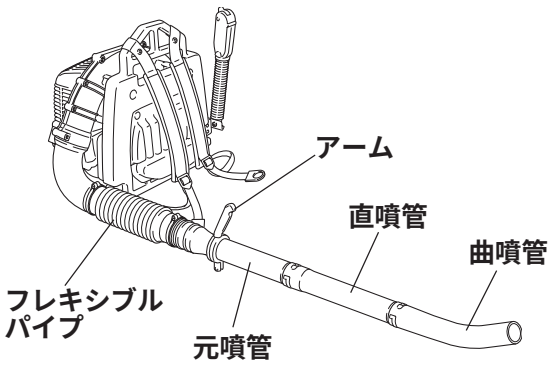
3．アームの蝶ナットをゆるめ、元噴管の仮の位置にアームを組付けておきます。

4．元噴管の突起に直噴管の切欠を合わせ、押し込んでから右回転方向（時計方向）にロックするまで回し、しっかり組付けます。

5．同じ要領で直噴管に曲噴管を組付けます。

6．アームを操作しやすい位置に動かしアームの蝶ナットを手で回して、しっかり固定してください。

組付完了図



7．最後に、各部がしっかり組付けられているか、確認してください。

３．作業前の準備

３－２　燃料の準備

⚠ 危　険

燃料は非常に引火しやすいので、取扱いを誤ると火災の危険があります。
本書の「安全にご使用いただくために」（６～７ページ）記載の「注意事項」をよく読み、必ず守ってください。
☆燃料に引火して、火傷や火災を起こすことになります。



⚠ 警　告

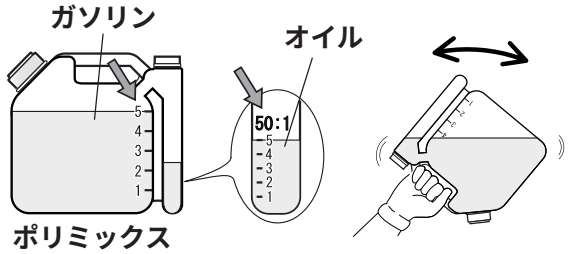
- **燃料を補給する際は手動式の燃料補給ポンプを使用し、機体が安定した状態で給油口からこぼさないように注意して補給してください。（電池式の灯油ポンプは使用しないでください）**
  製品に燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。
- **燃料を補給する際は静電気の火花放電を避けるため、補給前に製品および補給用タンクを地面に数分間置くなどして、帯電している静電気をアースしてください。**
  また、作業者自身も手のひらを地面や金属に接するなどしてアースしてください。
- **燃料を補給した後は燃料タンクキャップを確実に締付け、必ず燃料パイプ、燃料系グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。燃料の漏れ、にじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。**

☆燃料に引火して、火傷や火災を起こす原因となります。

重　要

混合燃料は劣化しやすいので、使用する分量だけ混合してください。燃料の混合は、製品の燃料タンクで行なわないで、ポリミックス（別売品）を使用して、よく混合してください。

■ 燃　料



２サイクルエンジンオイルの種類と混合比

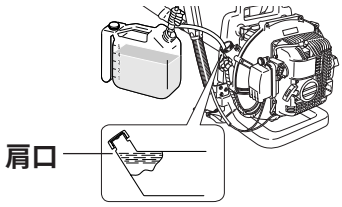
ガソリン	２サイクルエンジンオイル	
L	mL	
	５０：１	２５：１
2	40	80
4	80	160
5	100	200

- 燃料はレギュラーガソリン**（アルコール混入燃料はゴム製部品の劣化を早めます）**と、２サイクルエンジンオイルを混合した「混合燃料」です。
- ２サイクルエンジンオイルはＪＡＳＯ性能分類により「ＦＢ・ＦＣ・ＦＤ」の３種類に分類され容器に表示しています。「ＦＡ」はＪＡＳＯの旧規格で定められていました。共立純正２サイクル専用オイルは「ＦＣ」です。
- ２サイクルエンジンオイルの種類により以下の比率で混合してください。

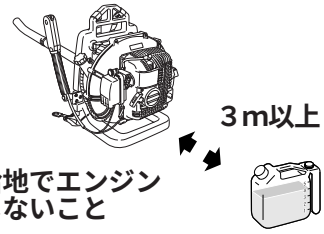
  ＦＣ・ＦＤ　　；［５０：１］
  ＦＡ・ＦＢ　　；［２５：１］

３-２　燃料の準備　（続き）

■ 燃料補給



燃料は燃料タンクの肩口より上まで補給しない



燃料補給地でエンジンを始動しないこと

・燃料の補給作業は、必ず風通しの良い所で行なってください。
・燃料の補給作業は、製品と補給用タンクを地面に置いて行なってください。トラックの荷台の上などでは行なわないでください。

・燃料は必ず燃料タンクの肩口以下に補給してください。
・燃料タンクには、外気との間に圧力差が生じています。
燃料を補給するときは、燃料タンクキャップをすこしゆるめて、圧力差を取除いてください。
・燃料タンクのキャップを開け､手動式の燃料補給ポンプなどでこぼさないように混合燃料を入れてください。(電池式の灯油ポンプは使用しないでください)
・燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。ただし湿度が低いときは､乾いた布で拭くと静電気を帯びやすいので、水を湿らせた布で拭き取るようにしてください。

・エンジンを始動する前に､燃料を補給した場所から３m以上移動してください。

・補給用タンクは火気のない日陰に置いてください。

４．エンジンの運転

４-１　エンジンの始動

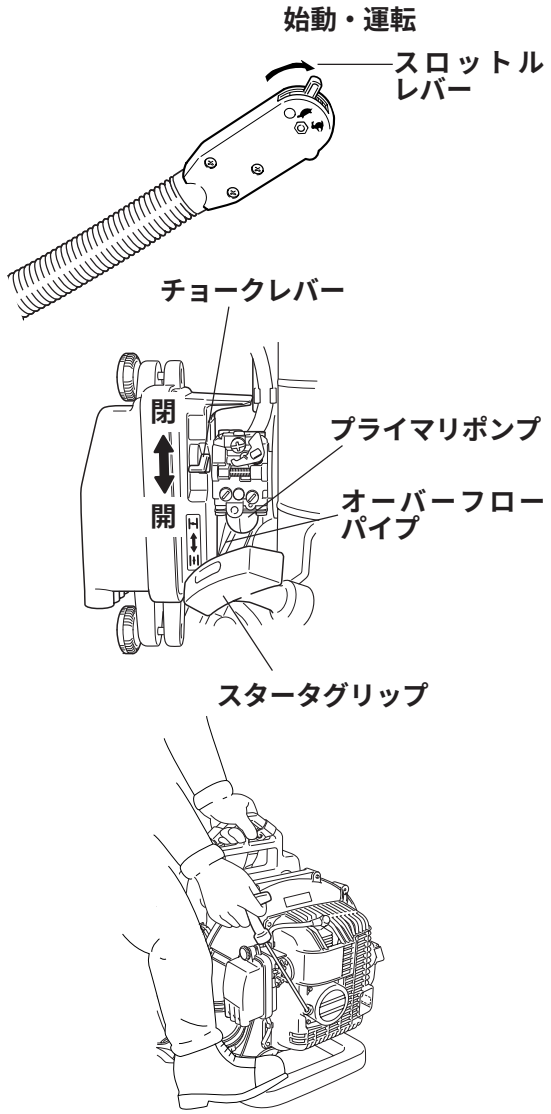
⚠ 警　告

エンジンを始動する場合は、本書の「安全にご使用いただくために」(3～8ページ）記載の「注意事項」を守って正しく操作してください。
☆「注意事項」を守らないと、死亡を含む傷害や事故を負う原因となります。

重　要

- 噴管なしで運転しないでください。エンジン不調の原因となります。
- スタータグリップを引くときは、まず軽く引出し更に素早く引いてください。引きヒモの２／３以上は引出さないでください。
- スタータグリップを戻すときは、途中で手から離さないでください。
- エンジン始動操作のときに 最初の爆発音が聞こえたら、チョークレバーを戻して再度スタータグリップを引くと始動します。最初の爆発音を聞き逃さないようにしてください。

■ 冷えたエンジンの始動



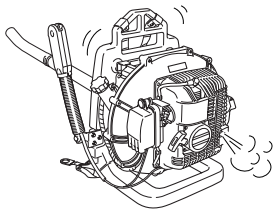
（長期保管の後は、スパークプラグキャップを接続してください。）
エンジンの始動には、冷えたエンジンの場合と暖まっているエンジンの場合があります。冷えたエンジンの始動は次のようにしてください。

1. 製品を平坦な地面に置き、フレキシブルパイプ、噴管類が確実に組付けられていることを確認します。
2. ボルトやナット、ネジ類にゆるみがなく、燃料タンクキャップがしっかり締付けられていることを確認します。
3. 燃料が漏れていないことを確認します。
4. スロットルレバーを始動・運転方向にします。（「低速」🐢の位置）
5. オーバーフローパイプに燃料が見えるまで、プライマリポンプを押す･離すの操作をくり返してください。（目安５～１０回）
   ※購入後初めて使用する場合または長期保管後最初に使用するときは、上記の目安回数にかかわらずオーバーフローパイプに燃料が見えるまで、プライマリポンプの操作は続けてください。
6. チョークレバーを「閉」(⊢◹⊣) の位置にします。
7. 周囲の安全を確認して、図のように製品をしっかり押え、スタータグリップを数回引いてください。
8. 爆発音がし、すぐに止まった場合は、チョークレバーを「開」(⊢┼⊣) の位置に戻して、更にスタータグリップを引き始動させてください。
9. 上記7.の操作ですぐにエンジンが始動したら、チョークレバーを徐々に「開」(⊢┼⊣) に戻してください。
10. 低速のままでしばらく暖機運転をしてください。

4．エンジンの運転

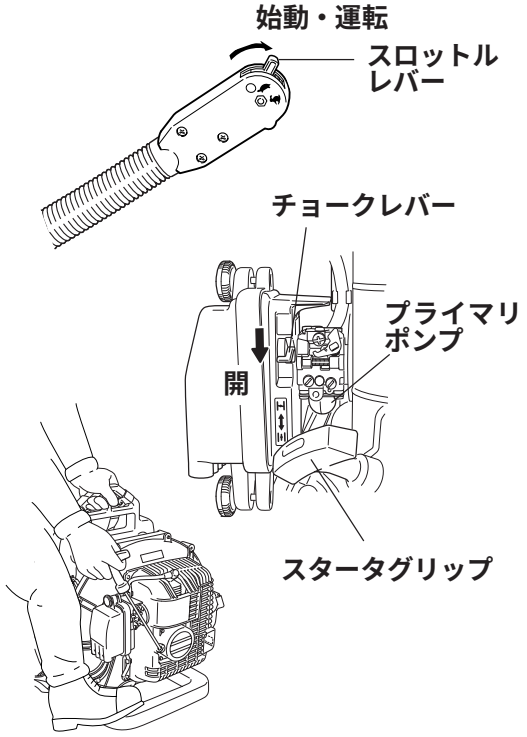
4 - 1　エンジンの始動　（続き）

■ エンジンの暖機運転



1．エンジンが始動したら、2～3分間、アイドリング（低速運転）で暖機運転を行ないます。
2．暖機運転は、エンジン内部の潤滑を円滑にします。特に冷えているときは、充分に行ないます。
3．フレキシブルパイプ、噴管類を取付けない状態での運転は絶対に行なわないでください。

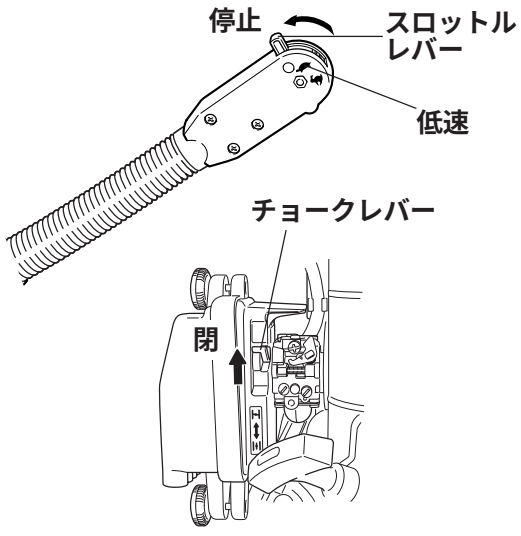
■ 暖まっているエンジンの始動



1．スロットルレバーを始動・運転方向にします。（「低速」🐢の位置）
2．チョークレバーが 「開」(⫲) の位置にあることを確認してください。
3．燃料タンクがカラでなければ、スタータグリップを引いてエンジンを始動させてください。このときプライマリポンプの操作は必要ありません。
4．燃料タンクがカラのときは、燃料を補給した後、オーバーフローパイプに燃料が見えるまで、プライマリポンプを押す・離すの操作をくり返してください。（目安５～１０回）
5．周囲の安全を確認して、図のように製品をしっかり押え、スタータグリップを引いてエンジンを始動させてください。

4 - 2　エンジンの停止

■ エンジンの停止



1．スロットルレバーを「低速」の位置（🐢）にし、エンジンをアイドリング（低速運転）状態にしてください。
2．スロットルレバーを「停止」（〇）の位置にしてください。
3．緊急の場合は、直ちにスロットルレバーを「停止」（〇）の位置にしてエンジンを停止してください。
4．エンジンが停止しないときは、チョークレバーを「閉」(⫷) の位置にしてください。エンジンは失速し停止します。（チョークストップ）

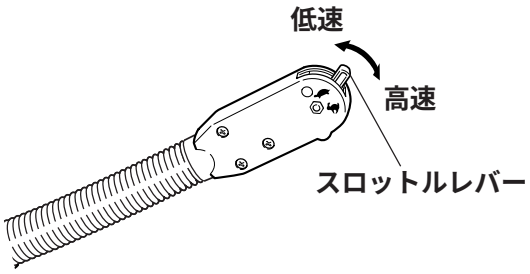
※　スロットルレバーでエンジンが停止しなかった場合は、製品を再び使用する前に、お買い求めの販売店に点検と調整を依頼してください。

５．製品の操作

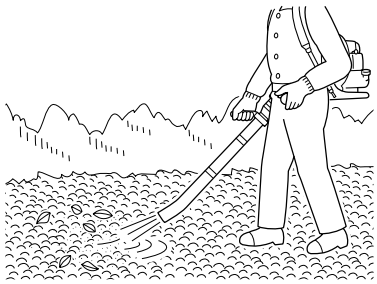
重　要

- スロットルレバーでエンジン回転数を調整すると、風速も回転数に応じて変化します。スロットルレバーを作業に合った位置にセットすると、一定の風速で作業できます。エンジン回転数が高ければ高いほど、騒音も高くなることにご注意ください。
- 製品は２，６００～６，５００r/minの範囲で運転されます。従って低速から高速までお望みの風速で、庭の枯れ葉からスタジアムの空缶・空瓶まで幅広い作業が可能です。
- エンジンの過回転による損傷を防ぐため、噴管はふさがないでください。

■ ブロワーの操作



1. スロットルレバーを「低速」（🐢）の位置で、２～３分間エンジンを暖めてください。



2. 枯れ葉や花壇のゴミ・枯れ草などを掃除する場合は、スロットルレバーを「低速」（🐢）の位置で作業してください。



3. 歩道、中庭、車道などを掃除する場合は、スロットルレバーを「中速」（🐢と🐇の中間）の位置にし、余裕のある風速で作業してください。



4. パーキングエリアやスタジアムの空缶・空瓶などを掃除する場合は、スロットルレバーを「高速」（🐇）の位置にし、更に余裕のある風速で作業してください。

6．点検・整備

6 - 1　点検・整備の目安

・お買い求め頂いた製品を調子よく安全にご使用いただくために、定期的に点検・整備を行なってください。

重　要

年単位および月単位の整備間隔については、実際の使用状況と経験から判断し必要に応じて点検・整備の回数を増やしてください。

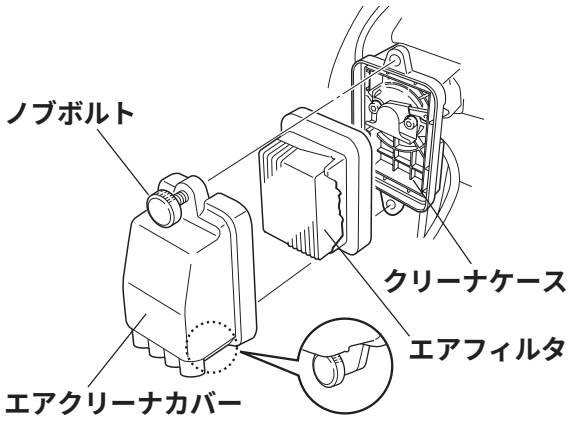
点検・整備個所	点検・整備内容	掲載ページ	毎回	毎月	毎年
エアフィルタ	点検／清掃／交換	１６	●		
燃料系統	点検	１７	●		
燃料フィルタ	点検／交換	１７		●	
スパークプラグ	点検／清掃と調整／交換	１７		●	
キャブレタ	点検／調整	１８			●
シリンダフィン	点検／清掃	１８	●		
マフラ	点検／増し締め／清掃	１８	●		
ネジ、ボルト、ナット類	点検／増し締め／交換	－	●		

6 - 2　点検・整備要領

重　要

- 作業が終了した後は、製品をよく清掃し常に最良の状態に点検・整備しておくことが、次回の作業を順調に進めるのに最も大切なことです。
- 使用後は、必ずエアフィルタを清掃してください。
- 燃料タンクは常に清掃しておきます。燃料タンクにゴミや砂などが入らないようにしてください。
- 燃料フィルタが汚れていると、エンジン不調の原因となります。
- 燃料フィルタの点検・交換時は、燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。
- スパークプラグは締付け過ぎないでください。
- エンジン冷却風の入口や、シリンダフィンにゴミなどが詰まりますと、エンジン焼き付きの原因となります。
- シリンダ排気口とマフラのカーボンの堆積は、エンジン出力低下の原因となります。マフラの出口を点検してください。
- ご不明の点については、お買い求めの販売店にご相談ください。

■ エアフィルタの点検／清掃



1. チョークレバーを「閉」(⊢)の位置にしてから、ノブボルトをゆるめてエアクリーナカバー、エアフィルタを取外します。

2. エアフィルタのゴミを落とし、軽くホコリを払ってください。エアフィルタが破損している場合は交換してください。

3. エアフィルタをクリーナケースに戻し、ノブボルトを締めてエアクリーナカバーを取付けてください。

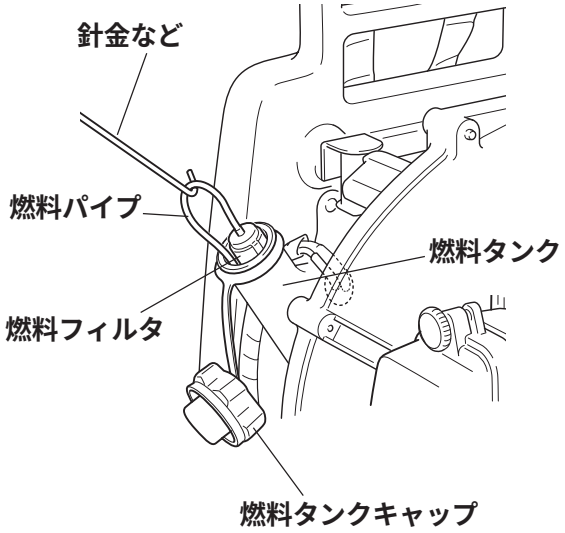
６－２　点検・整備要領　（続き）

■ 燃料系統の点検



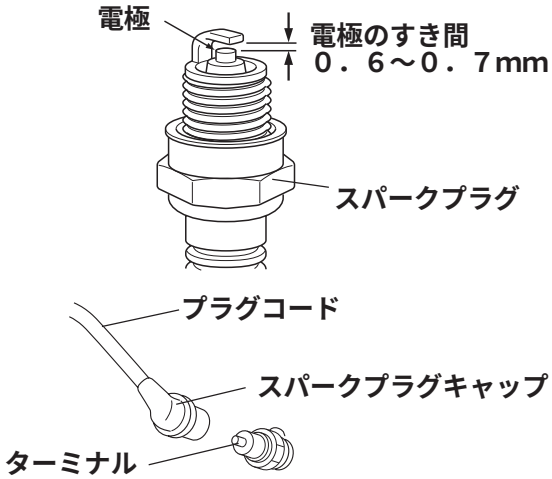
1. ご使用前に燃料を補給した後、燃料タンクキャップを確実に締付け、燃料パイプ、燃料系グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。
2. 燃料の漏れ、にじみがある場合は、火災の原因となりますので、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

■ 燃料フィルタの点検／交換



1. 燃料タンクキャップを外してください。
2. 針金などを使用して、燃料パイプに傷をつけないように燃料フィルタを燃料タンクの給油口から取出してください。
3. 燃料が劣化していたり、水分やゴミが混入している場合には、燃料を交換してください。
4. 上記3.の場合にはタンク内や燃料フィルタ、燃料パイプも洗浄します。
5. 燃料フィルタ部分が黒く硬くなっている場合は汚れていますので、燃料パイプから古い燃料フィルタを取外し、新しい燃料フィルタと交換してください。
6. 燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。
7. 点検・交換後は、燃料タンクキャップを確実に締付けてください。

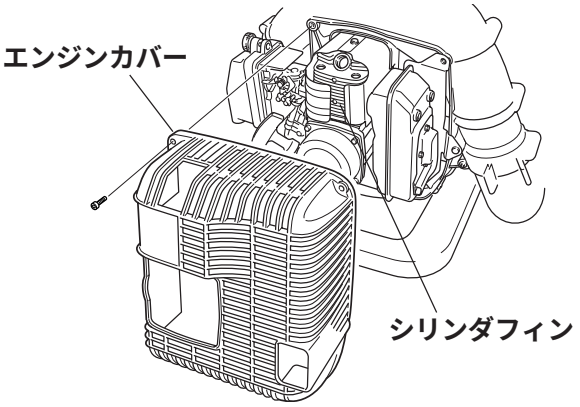
■ スパークプラグ関連の点検



1. 付属のソケットレンチ（１９mm）でスパークプラグを外してください。
2. 電極やターミナルが摩耗しているとき、すき間が規定寸法（０．６～０．７mm)でないとき、また電極の周囲にオイルや堆積物が付いているときは、新品と交換してください。
3. スパークプラグは、付属のソケットレンチでしっかり締付けてください。
   参考：締付けトルクは１５～１７N・m
   (１５０～１７０kgf・㎝)です。
4. スパークプラグキャップの接続に異常がないか、プラグコードやスパークプラグキャップにヒビ割れ、ピンホールなどがないかを点検します。

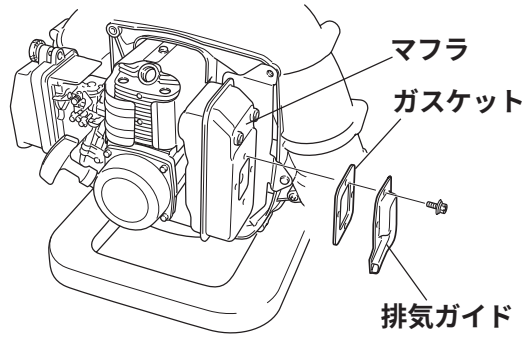
6 - 2　点検・整備要領　（続き）

■ シリンダフィンと冷却系統の保守



・スパークプラグキャップを外し、エンジンカバーを取外してください。
・シリンダフィンは常に清掃してください。
シリンダフィンの間に物が詰まると、エンジンがオーバーヒートする恐れがあります。木の棒などを使って、芝、泥、葉、その他のゴミ屑をシリンダフィンの間から取除いてください。
・シリンダフィンは薄くて割れやすいので、清掃するときは金属の棒などで衝撃を与えないようにしてください。

■ マフラの点検

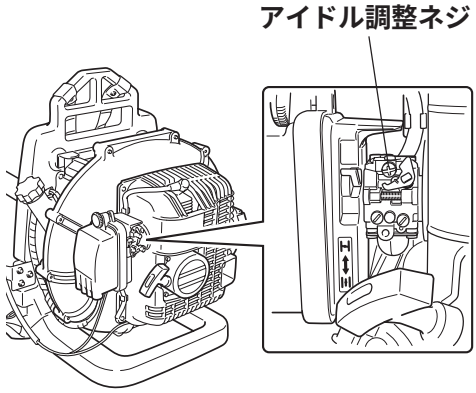


・スパークプラグキャップを外し、エンジンカバーを取外してください。（上図参照）
・マフラから排気ガイドとガスケットを取外し、排気出口のカーボンを取除いてください。エンジンの性能を一定に保つため、この作業は定期的に実施してください。
・ガスケットと排気ガイドをマフラに取付けてください。
・マフラの締付けボルトにゆるみがないか確認してください。ゆるみがある場合は、六角レンチで増し締めをしてください。

■ キャブレタの調整

重　要

・ 工場出荷時に、キャブレタはエンジンの性能を最も良く引出せるよう設定されていますが、次のような場合には、キャブレタの調整をしてください。
1)エンジンが始動しない。　2)回転が持続せず停止する。　3)回転が変動する。
・ 不必要にキャブレタを調整しないでください。
・ キャブレタの調整をするときは、必ずフレキシブルパイプ、噴管類を取付けて行なってください。
・ アイドル調整ネジは締めすぎないこと。強く締めすぎると、キャブレタを破損します。
・ アイドル調整ネジは、エンジンが停止しないように再調整してください。



キャブレタ調整を行なう前に、エアクリーナの清掃／交換を行ない、エンジンを数分間運転してください。

● アイドル調整ネジ

低速時のスロットルの開度を調節します。

1．アイドリング（低速運転）の回転数を調整するときは、キャブレタ本体のアイドル調整ネジを回して調整してください。（左図参照）

※　調整してもエンジン回転不調の場合は、お買い求めの販売店へご相談ください。

6．点検・整備

6 - 3　故障診断表

故障内容	故障診断	原因	対策
エンジンが始動困難、または始動しない	キャブレタに燃料がない	燃料フィルタの目詰まり 燃料系統の目詰まり キャブレタの不良	清掃か交換 清掃 販売店へ依頼
	キャブレタに燃料がある	キャブレタの不良 燃料の変質	販売店へ依頼 新しい燃料と交換
	クランク軸が回転しない	エンジン内部の故障	販売店へ依頼
	スパークプラグが汚れている、濡れているまたは発火しない	燃料の変質 電極の隙間が正しくない カーボンが付着している 電気的障害	新しい燃料と交換 調整か交換 清掃か交換 販売店へ依頼
エンジンは始動するが加速できない、または加速不充分		エアフィルタの汚れ 燃料フィルタの汚れ 燃料通路の詰まり キャブレタの不良 スパークプラグの不良 排気口・マフラ出口の詰まり	清掃か交換 清掃か交換 販売店へ依頼 販売店へ依頼 清掃、調整か交換 清掃

・点検・整備には専門的な知識が必要です。ご自分で点検・整備や故障対策ができない場合は、むやみに製品を分解しないで、お買い求めの販売店にご相談ください。
・表中に記載されていない故障の場合など、ご不明の点はお買い求めの販売店にご相談ください。
・補用品や消耗品は必ず純正部品または指定品を使用してください。他社部品あるいは指定品以外の部品を使用すると故障の原因となる場合があります。

6．点検・整備

6 - 4　長期保管(３０日以上)

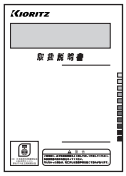
⚠ 警　告

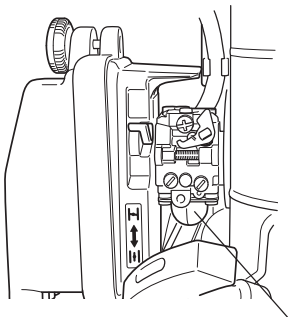
燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のあるそばに保管しないこと。
☆火災の原因となります。



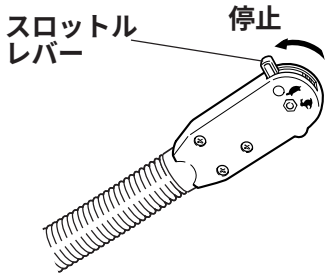
重　要

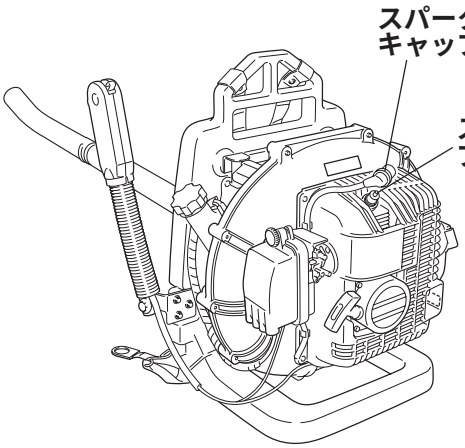
この取扱説明書は、いつでも読めるよう保管してください。





プライマリポンプ





製品を長期間（３０日以上）にわたって保管する場合は、以下に示す保管の際の整備を必ず実施してください。

1. **燃料タンクを完全にカラにしてください。**
   - **A. 燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。**
   - **B. プライマリポンプを押す・離すの操作を数回くり返して、プライマリポンプの燃料を抜きます。**
   - **C. エンジンを始動し、自然に停止するまで運転してください。**
2. **スロットルレバーを停止位置にしてください。**
3. **本書に定められた定期的な点検をしてください。**
4. **製品のすべての部分を検査し、調節してください。スクリュ・ナット類が締まっているか確認し、ゆるんでいる場合は増し締めしてください。**
   - **A. 必要ならば掃除をし、修理をしてください。**
   - **B. サビ止めに、金属部分には薄く機械油を塗ってください。**
5. **スパークプラグを外し、その取付穴から適量（１０mL程度）の、新しくきれいな２サイクルエンジンオイルをシリンダに入れてください。**
   - **A. スパークプラグの取付穴の上にきれいな布を掛けてください。**
   - **B. スタータグリップを２、３回引いて、エンジンオイルをシリンダ内に行き渡らせてください。**
   - **C. スパークプラグ取付穴からピストンの位置を確認してください。スタータグリップをゆっくり引き、ピストンが最も上のところで止まるようにしてください。**
6. **スパークプラグを取付けてください。（スパークプラグキャップは接続しないでください。）**
7. **製品が充分冷えて乾いてから、子供の手の届かないホコリの少ない乾燥した場所に保管してください。**

●製品や部品を廃棄するときは、販売店にご相談するか、自治体の指導に従ってください。

7．仕様

区分	項目	型式 / 単位	PB460
質　量		kg	9.8 （燃料除く）
容　量	燃料タンク	L	1.9
寸　法	長さ×幅×高さ	mm	350 × 525 × 480 （フレキシブルパイプ、噴管類除く）
エンジン	形式 排気量 キャブレタ マグネト スパークプラグ 始動方式	mL	空冷2サイクル単シリンダ 44.0 ダイヤフラム式 フライホイールマグネト電子点火方式 ＮＧＫ　ＢＰＭ７Ｙ リコイルスタータ
燃　料	混合比		[レギュラーガソリン：2サイクルエンジンオイル] FC・FD　;[50：1] FA・FB　;[25：1]
送風機	基準回転数 送風機最大風量 送風機最大風速	r/min m^3/min m/s	6,500 10.8 78
噴管	吐出パイプ径	mm	58（曲噴管）

※この仕様は、予告なしに変更することがあります。

8．その他

8－1　補用品と消耗品

部　品　名　称	部　品　番　号	備　　考
エアフィルタ	Ａ２２６－０００００３２	
燃料フィルタ	１３１２０５－１９８３０	
スパークプラグ	１５９０１０－１９６３０	ＮＧＫ　ＢＰＭ７Ｙ
ソケットレンチ	８９５４１０－０６９６０	
ポリミックス	Ｂ２０２－０００１５００	５Ｌ
ポリミックス	Ｂ２０２－０００００２００	２Ｌ
５０：１　２サイクル専用オイル	Ｂ１０５－０１０１００３	１Ｌ
５０：１　２サイクル専用オイル	Ｂ１０５－０１００４０３	４００ｍＬ

8－2　アクセサリ類（別売品）

部　品　名　称	部　品　番　号	備　　考
レインガターキット	２１５０００－０４２６０	溝クリーニングキット
バキュームアタッチメント	ＰＢＡＶ４６００（販売店にご相談ください）	

・ご購入の際は製品をお買い求めの販売店にご用命ください。
・補用品や消耗品は必ず純正部品または指定品を使用してください。他社部品あるいは指定品以外の部品を使用すると故障の原因となる場合があります。
・製品の仕様・性能に合わせてお選びください。ご不明な点は製品をお買い求めの販売店にご相談ください。

索　引

あ行

アーム …… 9,10
アイドリング …… 14,18
アイドル調整ネジ …… 18
安全確保 …… 7
異常振動・異常音 …… 7
エアクリーナ …… 9,16
エアフィルタ …… 16
エルボ …… 9,10
エンジンカバー …… 9,18
オーバーフローパイプ …… 13

か行

ガイシ …… 8
ガスケット …… 18
規定レベル …… 6
キャブレタ …… 18
給油口 …… 11
曲噴管 …… 9,10
携行缶 …… 6
警告表示 …… 3,4
健康管理 …… 5
高温部 …… 3,8
高電圧部 …… 8
混合燃料 …… 11
梱包部品 …… 9

さ行

JASO 性能分類 …… 11
使用環境 …… 5
譲渡 …… 5
使用者 …… 5
シリンダフィン …… 18
シンボルマーク …… 3
スタータグリップ …… 9,13,14
スパークプラグ …… 8,9,17
スロットルレバー …… 9,13,14,15
静電気 …… 6,11

た行

ターミナル …… 8,17
貸与 …… 5
暖機運転 …… 13,14
長期保管 …… 13,20
チョークストップ …… 14
チョークレバー …… 9,13,14
直噴管 …… 9
2サイクルエンジンオイル …… 11
電極のすき間 …… 17
点検・整備 …… 16

な行

にじみ …… 6,11
燃料 …… 11
燃料系グロメット …… 11,17
燃料タンク …… 9,12,17
燃料タンクキャップ …… 9,11,17
燃料タンクの肩口 …… 6,12
燃料パイプ …… 11,17
燃料フィルタ …… 16,17
燃料補給地 …… 6
燃料補給ポンプ …… 11
燃料漏れ …… 6
ノブボルト …… 16

は行

排気ガイド …… 18
排気ガス …… 7
排出ガス自主規制適合証 …… 1
爆発音 …… 13
裸火 …… 20
発火テスト …… 8
発火・発煙 …… 7
バンド …… 9,10
引きヒモ …… 13
ピンホール …… 17
プライマリポンプ …… 9,13,14
プラグ孔 …… 8
プラグコード …… 8,17
フレキシブルパイプ …… 9,10
補給用タンク …… 11,12
保護具 …… 8
ポリミックス …… 11

ま行

巻き込まれ …… 3,8
増し締め …… 16,20
マフラ …… 18
元噴管 …… 9,10

ら行

レインガターキット …… 21

メ　モ

株式会社 共立

東京都青梅市末広町1-7-2　〒198-8711　☎0428-32-6181

北海道共立エコー株式会社
札幌市厚別区大谷地東1-2-20　〒004-0041　☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社
仙台市若林区卸町東5-1-50　〒984-0002　☎022-288-0511(代)

東部共立エコー株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-1091(代)

中部共立エコー株式会社
愛知県清須市西枇杷島町宮前1-39　〒452-0031　☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社
岡山市藤田566-159　〒701-0221　☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社
大野城市白木原5-3-7　〒816-0943　☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-004 03 5
X750 112-720 5　　0802Am 0073 ES

© 2005 株式会社 共立　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。